

. 子ども・子育て支援に関する取組

子ども・子育て支援に関する取組の調査結果要旨

「子ども・子育てビジョン」で掲げている「目指すべき社会」と、その社会を実現するための取組の達成度の点検・評価、また、取組に関する要望の調査を行った。

1. 目指すべき社会の姿の達成度について

「目指すべき社会」の達成度の点検・評価では、「子どもの健康と安全を守り、安心して医療にかかれるような社会」、「子どもを社会全体で支えるとともに、教育の機会の確保をできる社会」の達成度が上位にあり、社会全体で子ども・子育てを支える取組の達成度に相対的に高い評価が得られた。一方で、達成度の下位に「意欲を持って就業と自立に向かえるようにできる社会」が挙げられており、若者の就労による経済的自立について相対的に低い評価となっている。

(P79～86 参照)

2. 子ども・子育てビジョンの取組について

子ども・子育て支援に関する具体的な取組については、「子どもの健康と安全を守る取組」、「子どもの学びを支援する取組」が他の項目に比べ相対的に高い評価となっているが、「行っていると思う」よりも「行っていないと思う」の回答率が高くなっており、「目指すべき社会の姿」への取組が浸透していないことがうかがえる。評価の下位に挙がっているものについて、「若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組」が、最も評価が低く、また、実施してほしい取組、不十分だと考える取組で最も回答率が高くなっており、若者の自立した生活と就労に向けた支援に対する、今後のより一層の取組が求められている。若年層の経済的自立が困難な社会という結果となっている。また、「長時間労働の抑制、テレワークの活用等、働き方の見直しに向けた環境整備を図る取組」においても、評価が低く、国の取組として不十分と考えられており、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組、若者の自立した生活と就労に向けた支援に対する、今後のより一層の取組が求められている。

(P87～参照)

1. 目指すべき社会の姿の達成度

(1) 全回答者の集計結果

達成度が相対的に高く評価されている項目

子ども・子育て施策に関する取組の中で、目指すべき社会の姿を達成していると思う(「そう思う」と「ややそう思う」の計)という回答が最も多かったのは「子どもの健康と安全を守り、安心して医療にかかれるような社会」(35.8%)、次いで「子どもを社会全体で支えるとともに、教育機会の確保をできる社会」(26.5%)、「働き方の見直しが可能な社会」(23.9%)、「子どもが住まいやまちの中で安全・安心にらせるような社会」(23.7%)、「社会生活に必要なことを学ぶ機会を持つ社会」(23.4%)となっている。

達成度が相対的に低く評価されている項目

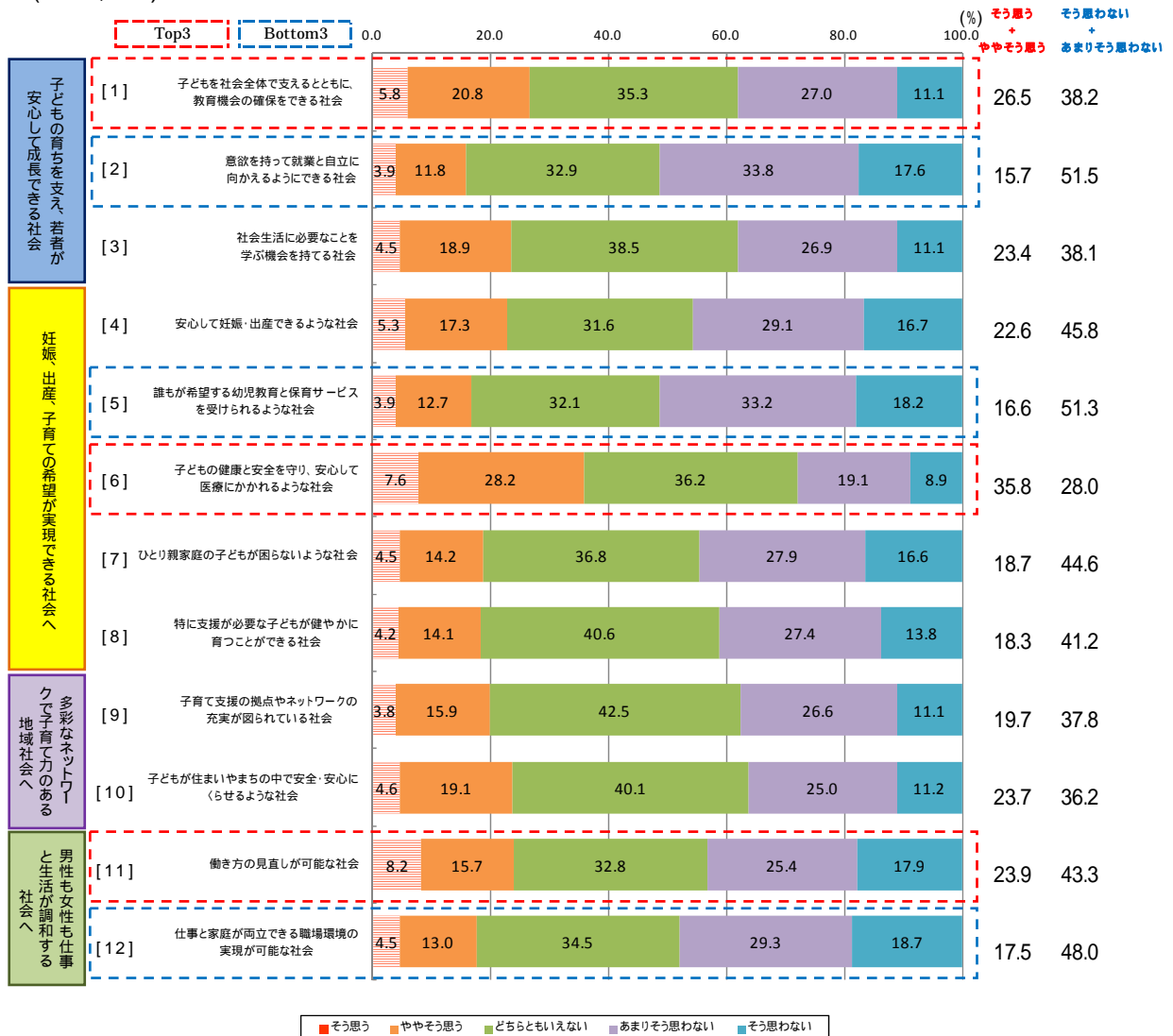
子ども・子育て施策に関する取組の中で、目指すべき社会の姿を達成していると思わない(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)という回答が最も多かったのは「意欲を持って就業と自立に向かえるようにできる社会」(51.5%)、次いで「誰もが希望する幼児教育と保育サービスを受けられるような社会」(51.3%)、「仕事と家庭が両立できる職場環境の実現が可能な社会」(48.0%)、「安心して妊娠・出産できるような社会」(45.8%)、「ひとり親家庭の子どもが困らないような社会」(44.6%)となっている。

以下、相対的に評価の高い項目、低い項目について、ライフステージ別、性年代別に分析する。

「子ども・子育てビジョン」の「目指すべき社会の姿」の達成度

『目指すべき社会の姿』の達成度（回答率）

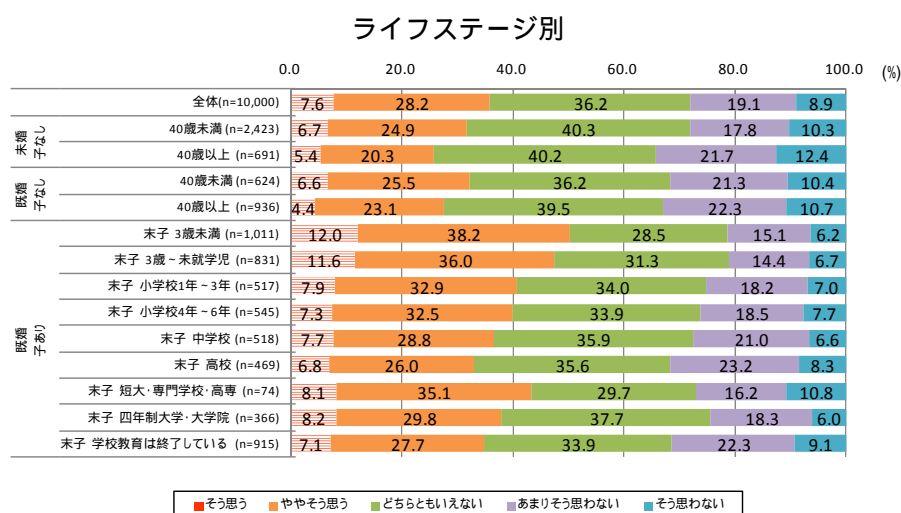
(n=10,000)



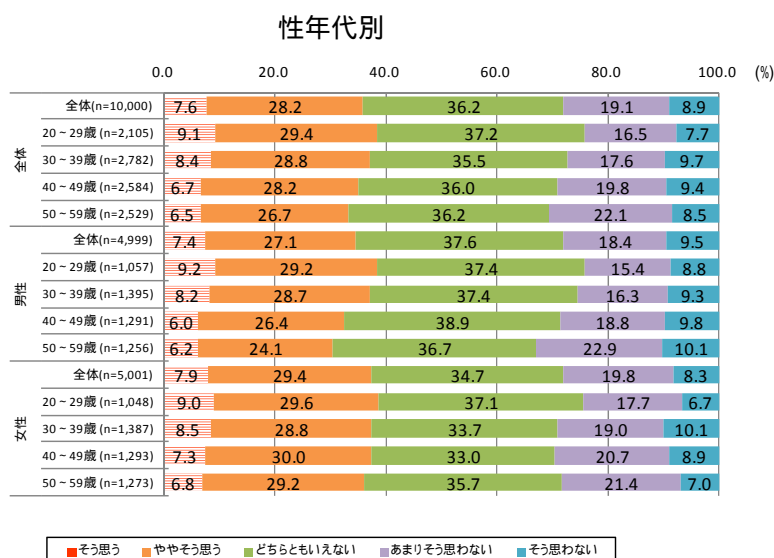
(2) 達成されていると思う施策

子どもの健康と安全を守り、安心して医療にかかれるような社会(社会6)

子どもの健康と安全を守り、安心して医療にかかることができる社会だと思うか質問したところ、ライフステージ別にみると、達成されていると思う割合(「そう思う」と「ややそう思う」の計)は、既婚子あり/末子3歳未満が50.2%と最も高く、次いで既婚子あり/末子3歳～未就学児(47.6%)、既婚子あり/末子短大・専門学校・高専(43.2%)となっている。



性年代別にみると、達成されていると思う割合(「そう思う」と「ややそう思う」の計)は、女性/20～29歳が38.6%と最も高く、次いで男性/20～29歳(38.4%)、女性/30～39歳(37.3%)、女性/40～49歳(37.3%)となっている。

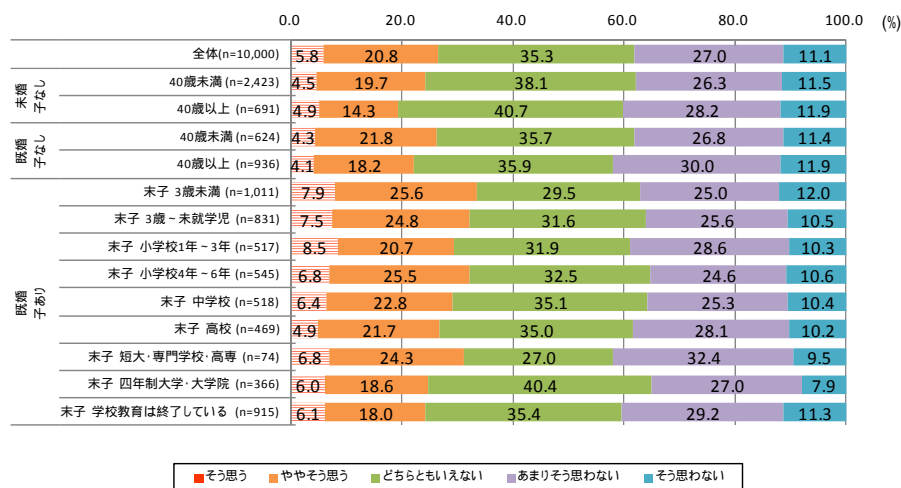


(2)達成されていると思う施策

子どもを社会全体で支えるとともに、教育機会の確保をできる社会(社会1)

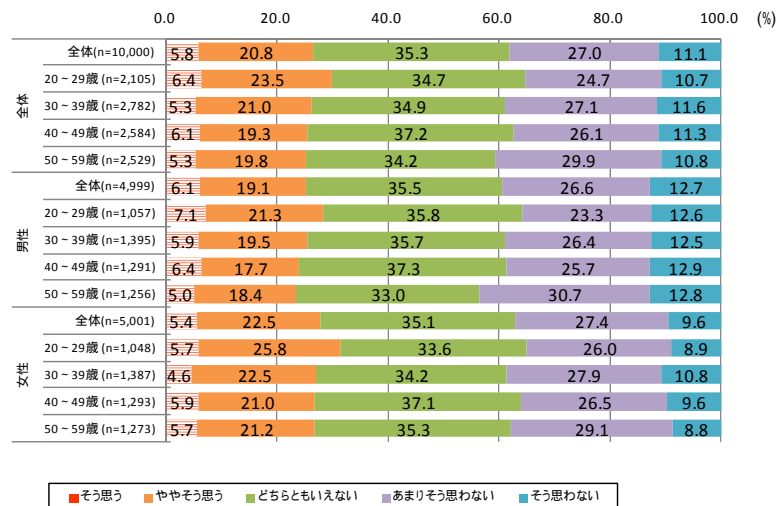
子どもを社会全体で支えるとともに、教育機会の確保をできる社会だと思うか質問したところ、ライフステージ別にみると、達成されていると思う割合(「そう思う」と「ややそう思う」の計)は、既婚子あり/末子3歳未満が33.5%と最も高く、次いで既婚子あり/末子3歳～未就学児が32.3%と高くなっている。一方、達成されていないと思う割合(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)は、既婚子なし/40歳以上(41.9%)、既婚子あり/末子短大・専門学校・高専(41.9%)で高くなっている。

ライフステージ別



性年代別にみると、達成されていると思う割合(「そう思う」と「ややそう思う」の計)は、女性/20～29歳が31.5%と最も高く、次いで男性/20～29歳が28.4%と高くなっている。性別で比べると、達成されていると思う割合は、女性の方が男性より高くなっている。

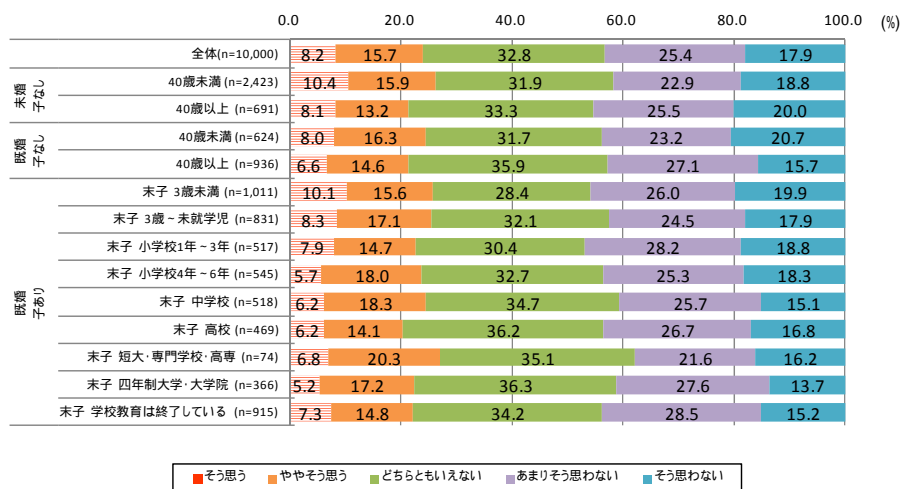
性年代別



働き方の見直しが可能な社会(社会 11)

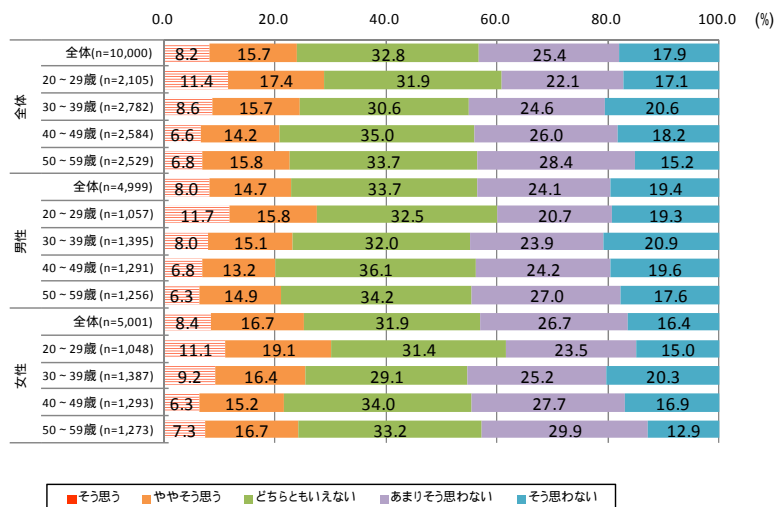
働き方の見直しが可能な社会だと思うか質問したところ、ライフステージ別にみると、達成されていると思う割合(「そう思う」と「ややそう思う」の計)は、既婚子あり/末子短大・専門学校・高専が27.1%と最も高く、次いで未婚子なし/40歳未満(26.3%)、既婚子あり/末子3歳未満(25.7%)となっている。一方、既婚子あり/末子3歳未満については、達成されていないと思う割合(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)も45.9%と高くなっている。

ライフステージ別



性年代別にみると、達成されていると思う割合(「そう思う」と「ややそう思う」の計)は、女性/20~29歳が30.2%と最も高く、次いで男性/20~29歳(27.5%)、女性/30~39歳(25.6%)となっている。年代で比べると、達成されていると思う割合は、若年層のほうが高くなっている。

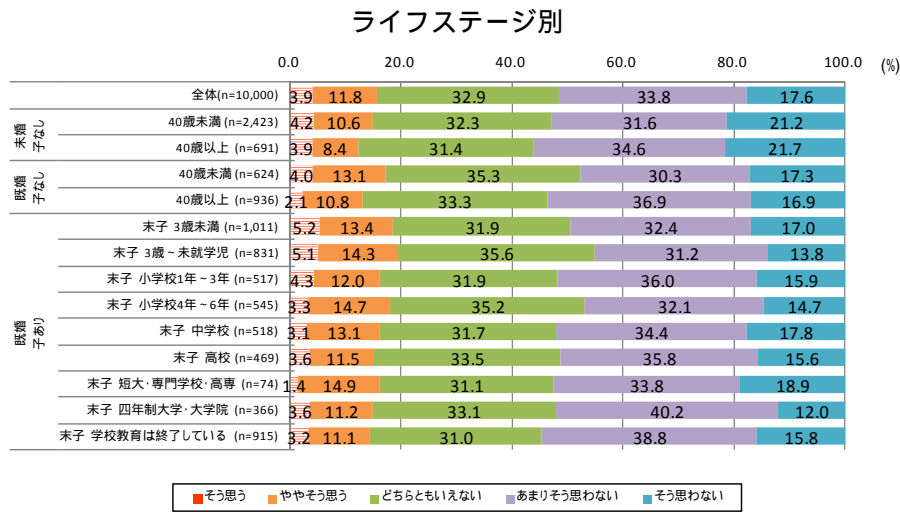
性年代別



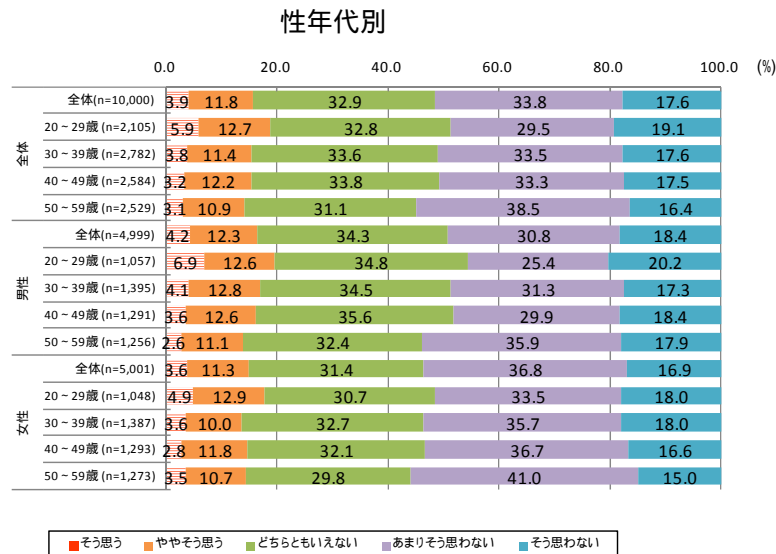
(3) 達成されていないと思う施策

意欲を持って就業と自立に向かえるようにできる社会(社会2)

意欲を持って就業と自立に向かえるようにできる社会だと思うか質問したところ、ライフステージ別にみると、達成されていないと思う割合(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)は、未婚子なし/40歳以上で56.3%と最も高く、次いで既婚子あり/末子学校教育は終了しているが54.6%と高くなっている。



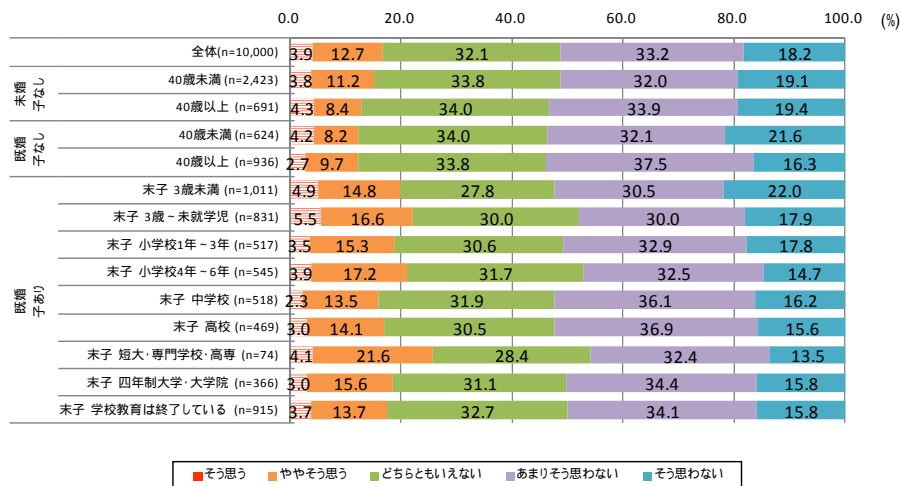
性年代別にみると、達成されていないと思う割合(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)は、女性/50~59歳で56.0%と最も高く、次いで男性/50~59歳が53.8%と高くなっている。年代で比べると、達成されていないと思う割合は、上の世代の方で高くなっている。



誰もが希望する幼児教育と保育サービスを受けられるような社会(社会5)

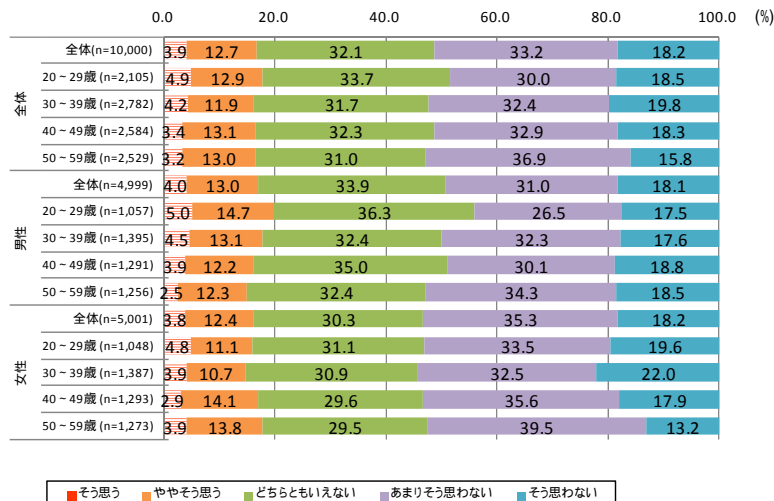
誰もが希望する幼児教育と保育サービスを受けられるような社会だと思うか質問したところ、ライフステージ別にみると、達成されていないと思う割合(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)は、既婚子なし/40歳以上(53.8%)、既婚子なし/40歳未満(53.7%)で高くなっている。達成されていると思う割合(「そう思う」と「ややそう思う」の計)は、既婚子なしと既婚子ありで差が見られ、既婚子なしの方が低い割合となっている。

ライフステージ別



性年代別にみると、達成されていないと思う割合(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)は、女性/30~39歳(54.5%)、女性/40~49歳(53.5%)で高くなっている。性別でくらべると、達成されていないと思う割合は、女性の方が高くなっている。

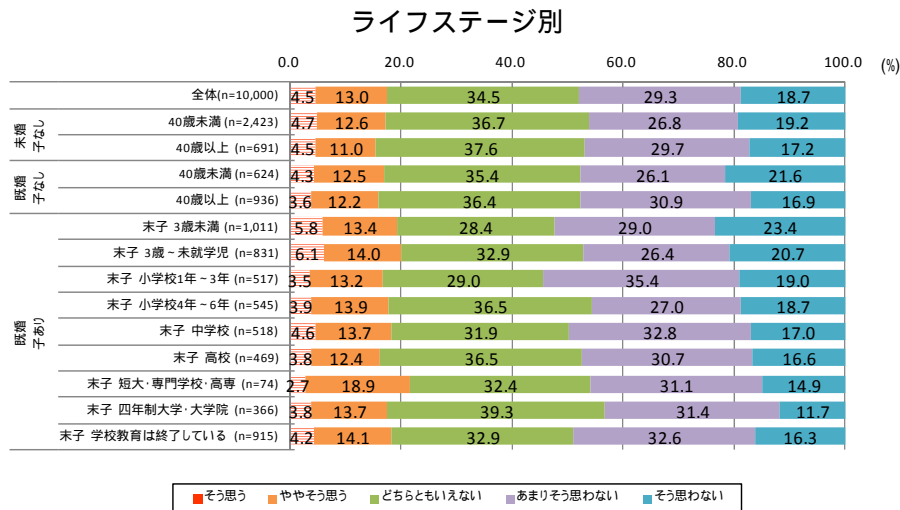
性年代別



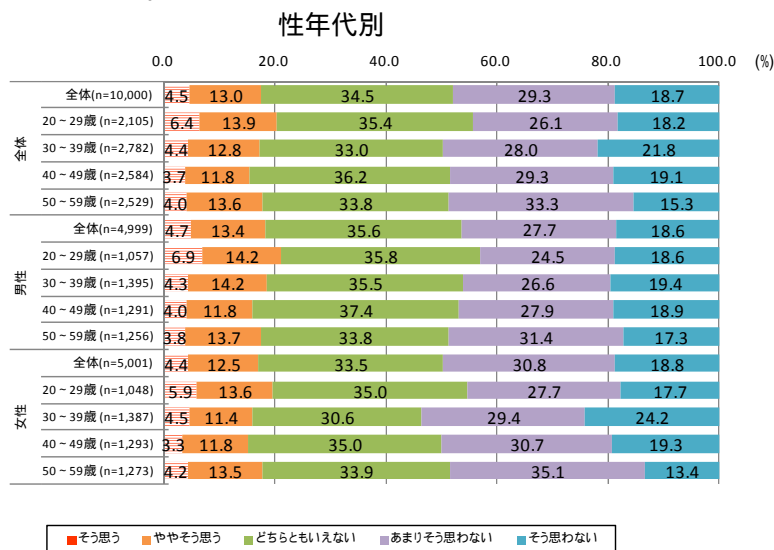
(3)達成されていないと思う施策

仕事と家庭が両立できる職場環境の実現が可能な社会(社会 12)

仕事と家庭が両立できる職場環境の実現が可能な社会だと思うか質問したところ、ライフステージ別にみると、達成されていないと思う割合(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)は、既婚子あり/末子小学校1年~3年で54.4%と最も高く、次いで既婚子あり/末子3歳未満(52.4%)、既婚子あり/末子中学校(49.8%)で高くなっている。



性年代別にみると、達成されていないと思う割合(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)は、女性/30~39歳で53.6%と最も高く、次いで女性/40~49歳(50.0%)、男性/50~59歳(48.7%)で高くなっている。また、女性の30歳以上で達成されていないと思う割合が高くなっている。



2. 子ども・子育てビジョンの国の取組への評価

(1) 全回答者の集計結果

取組を行っていると思う国の取組

子ども・子育てビジョンの国の取組の中で、行っていると思う(「行っていると思う」と「やや行っていると思う」の計)という回答が最も多かったのは「子どもの健康と安全を守る取組」(24.4%)、次いで「子どもの学びを支援する取組」(21.7%)、「小児医療体制を確保する取組」(18.1%)、「妊婦・出産の支援体制、周産期医療体制を確保する取組」(17.9%)、「放課後対策を充実する取組」(17.2%)となっている。

取組を行っていないと思う国の取組

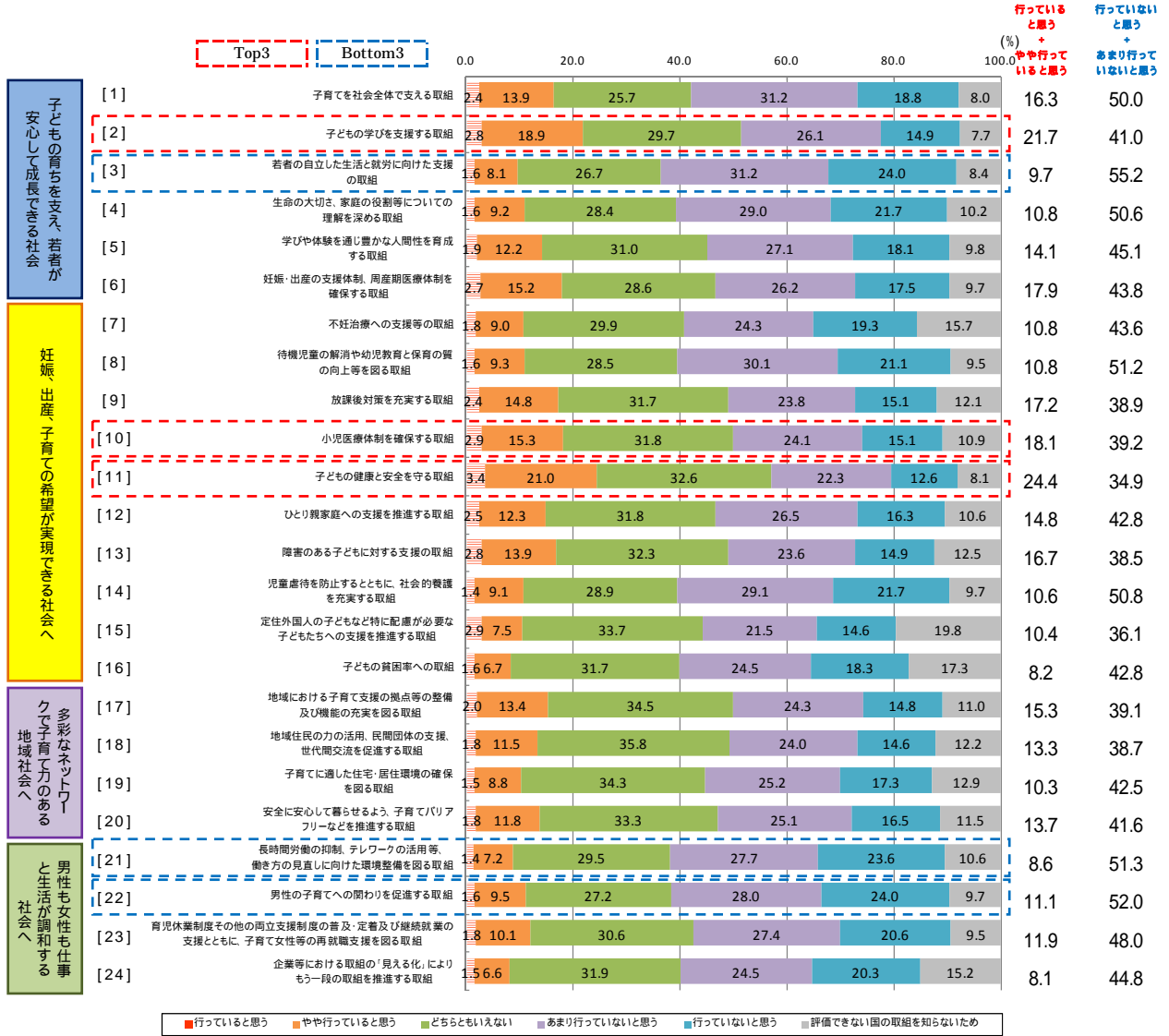
子ども・子育てビジョンの国の取組の中で、行っていないと思う(「行っていないと思う」と「あまり行っていないと思う」の計)という回答が最も多かったのは「若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組」(55.2%)、次いで「男性の子育てへの関わりを促進する取組」(52.0%)、「長時間労働の抑制、テレワークの活用等、働き方の見直しに向けた環境整備を図る取組」(51.3%)、「待機児童の解消や幼児教育と保育の質の向上等を図る取組」(51.2%)、「児童虐待を防止するとともに、社会的養護を充実する取組」(50.8%)となっている。

以下、相対的に評価の高い項目、低い項目について、ライフステージ別、性年代別に分析する。

「子ども・子育てビジョン」の国の取組への評価

「子ども・子育てビジョン」の国の取組への評価

(n=10,000)

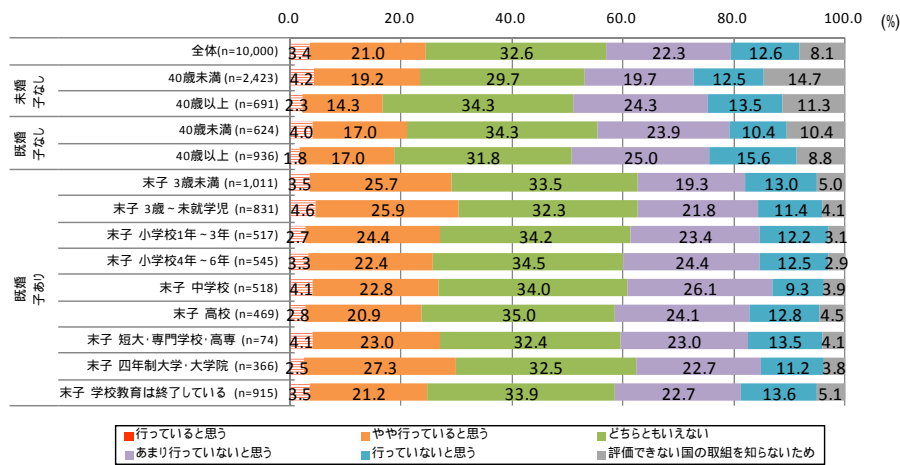


(2) 取組を行っていると思う施策

子どもの健康と安全を守る取組(取組 11)

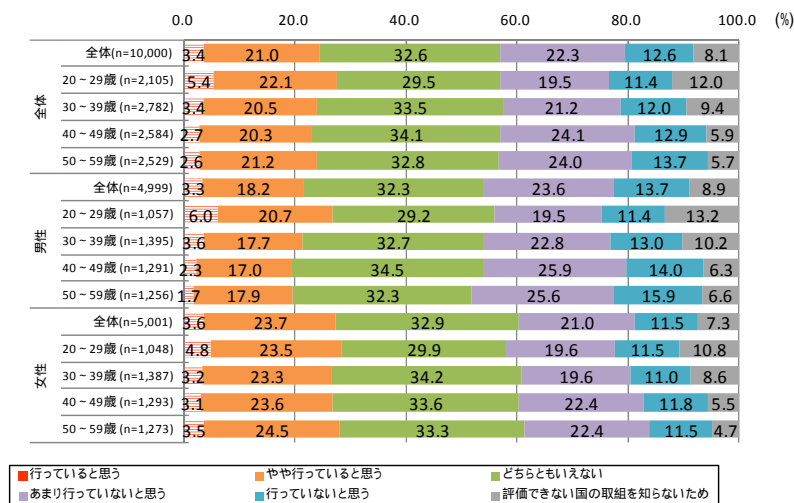
「子どもの健康と安全を守る取組」について、ライフステージ別にみると、取組を行っていると思う割合(「行っていると思う」と「やや行っていると思う」の計)は、既婚子あり/末子3歳～未就学児が30.5%と最も高く、次いで既婚子あり/末子四年制大学・大学院で29.8%と高くなっている。なお、「評価できない」(国の取組を知らないため)割合は、未婚子なし、既婚子なしで高くなっている。

ライフステージ別



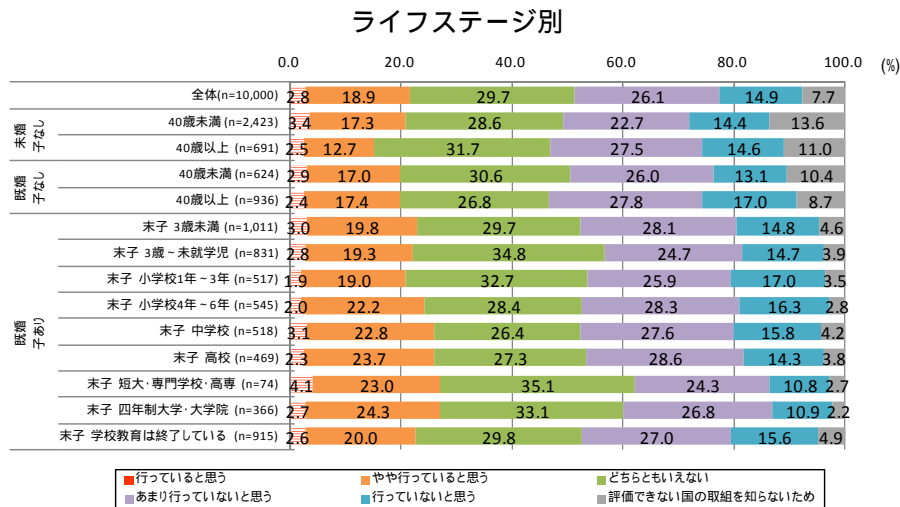
性年代別にみると、取組を行っていると思う割合(「行っていると思う」と「やや行っていると思う」の計)は、女性/20～29歳が28.3%と最も高く、次いで女性/50～59歳で28.0%と高くなっている。性別で比べると、取組を行っていると思う割合は、女性のほうが高くなっている。

性年代別

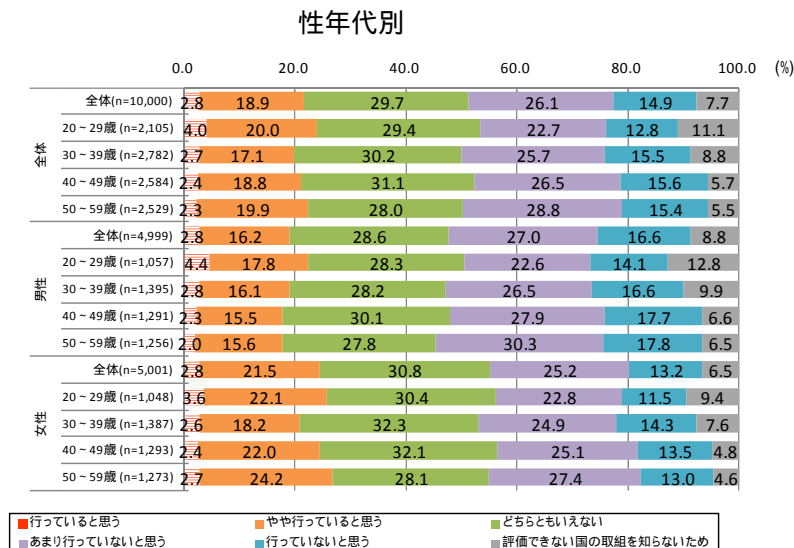


子どもの学びを支援する取組(取組 2)

「子どもの学びを支援する取組」について、ライフステージ別にみると、取組を行っていると思う割合(「行っていると思う」と「やや行っていると思う」の計)は、既婚子あり/末子短大・専門学校・高専が27.1%と最も高く、次いで既婚子あり/末子四年制大学・大学院で27.0%と高くなっている。なお、「評価できない」(国の取組を知らないため)割合は、未婚子なし、既婚子なしで高くなっている。



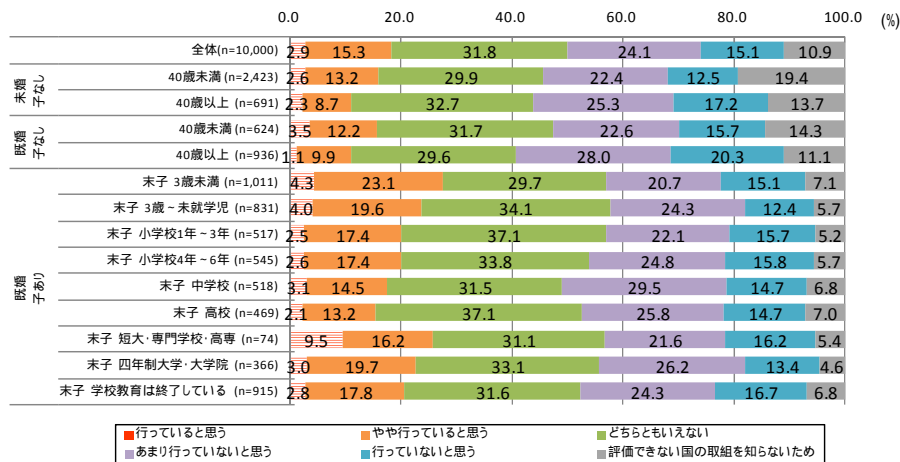
性年代別にみると、取組を行っていると思う割合(「行っていると思う」と「やや行っていると思う」の計)は、女性/50～59歳が26.9%と最も高く、次いで女性/20～29歳で25.7%と高くなっている。年代でくらべると、20～29歳は、取組を行っていると思う割合も高い一方、「評価できない」(国の取組を知らないため)割合も高くなっている。



小児医療体制を確保する取組(取組 10)

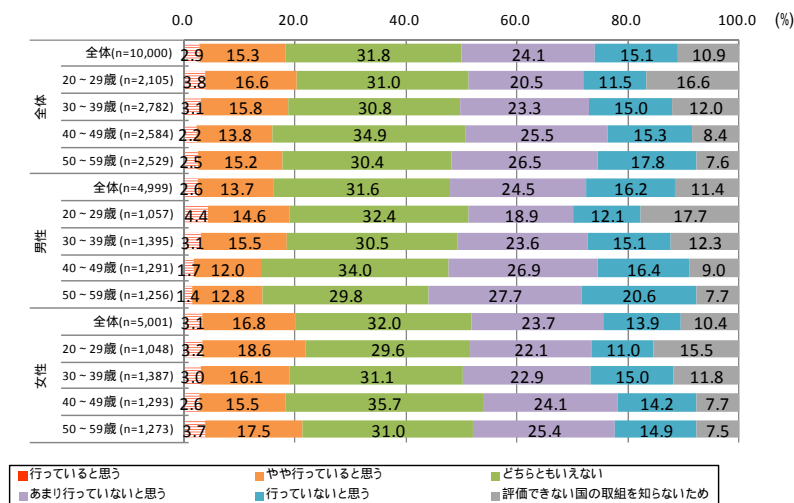
「小児医療体制を確保する取組」について、ライフステージ別にみると、取組を行っていると思う割合(「行っていると思う」と「やや行っていると思う」の計)は、既婚子あり/末子3歳未満が27.4%と最も高く、次いで既婚子あり/末子短大・専門学校・高専で25.7%と高くなっている。なお、「評価できない」(国の取組を知らないため)割合は、未婚子なし/40歳未満で19.4%と最も高くなっている。

ライフステージ別



性年代別にみると、取組を行っていると思う割合(「行っていると思う」と「やや行っていると思う」の計)は、女性/20~29歳が21.8%と最も高く、次いで女性/50~59歳で21.2%と高くなっている。年代でくらべると、20~29歳は、取組を行っていると思う割合も高いが、「評価できない」(国の取組を知らないため)割合も高くなっている。

性年代別

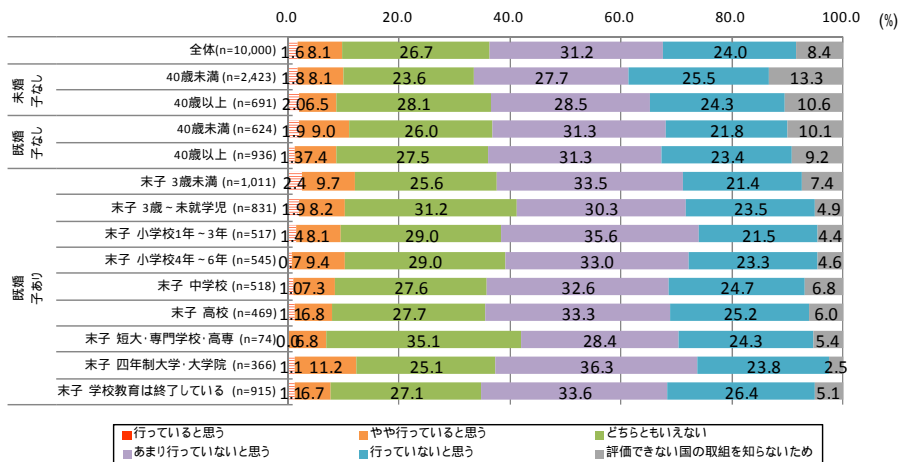


(3) 取組を行っていないと思う施策

若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組(取組3)

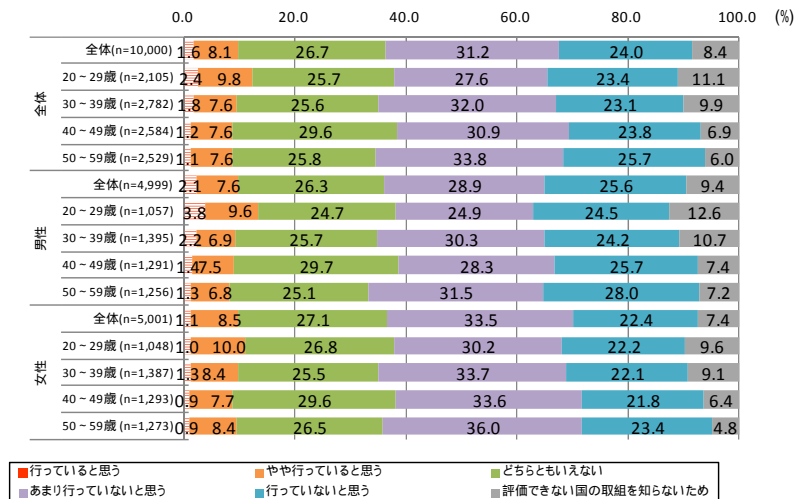
「若者の自立した生活と就労に向けた支援に取組」について、ライフステージ別にみると、行っていないと思う割合(「行っていないと思う」と「あまり行っていないと思う」の計)は、既婚子あり/末子四年制大学・大学院が60.1%と最も高く、既婚子あり/末子学校教育は終了している(60.0%)、既婚子あり/末子高校(58.5%)となっている

ライフステージ別



性年代別にみると、行っていないと思う割合(「行っていないと思う」と「あまり行っていないと思う」の計)は、男性/50~59歳が59.5%と最も高く、女性/50~59歳(59.4%)、女性/30~39歳(55.8%)となっている。年代で比べると、行っていないと思う割合(「行っていないと思う」と「あまり行っていないと思う」の計)は、上の世代ほど高くなっている。

性年代別

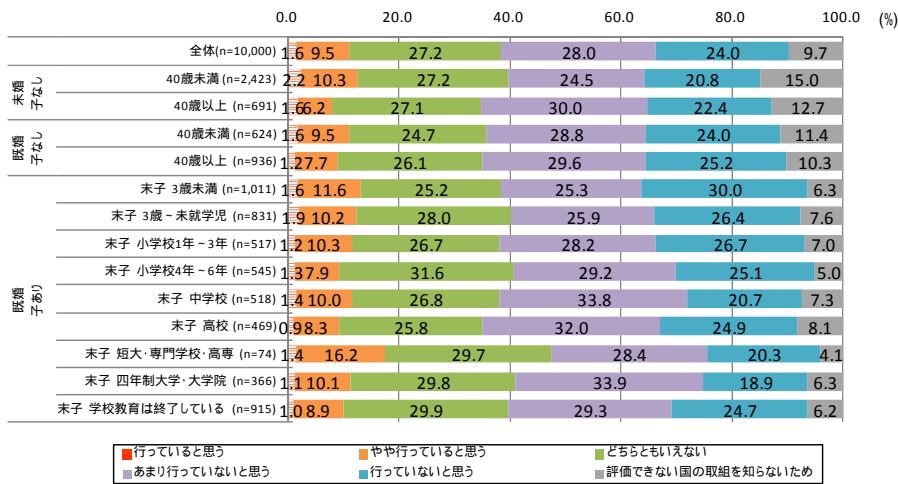


(3) 取組を行っていないと思う施策

男性の子育てへの関わりを促進する取組(取組 22)

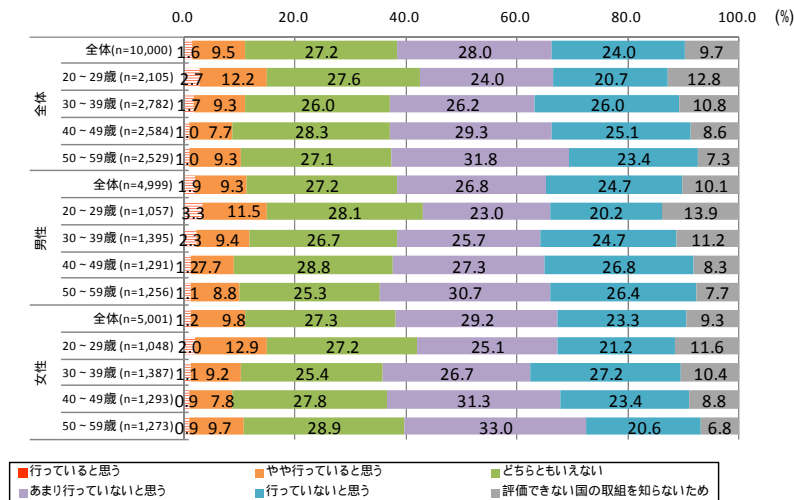
「男性の子育てへの関わりを促進する取組」について、ライフステージ別にみると、行っていないと思う割合(「行っていないと思う」と「あまり行っていないと思う」の計)は、既婚子あり/末子高校(56.9%)、既婚子あり/末子3歳未満(55.3%)で高くなっている。

ライフステージ別



性年代別にみると、行っていないと思う割合(「行っていないと思う」と「あまり行っていないと思う」の計)は、男性/50~59歳(57.1%)、女性/40~49歳(54.7%)で高くなっている。年代で比べると、行っていないと思う割合は、上の世代ほど高くなっている。

性年代別

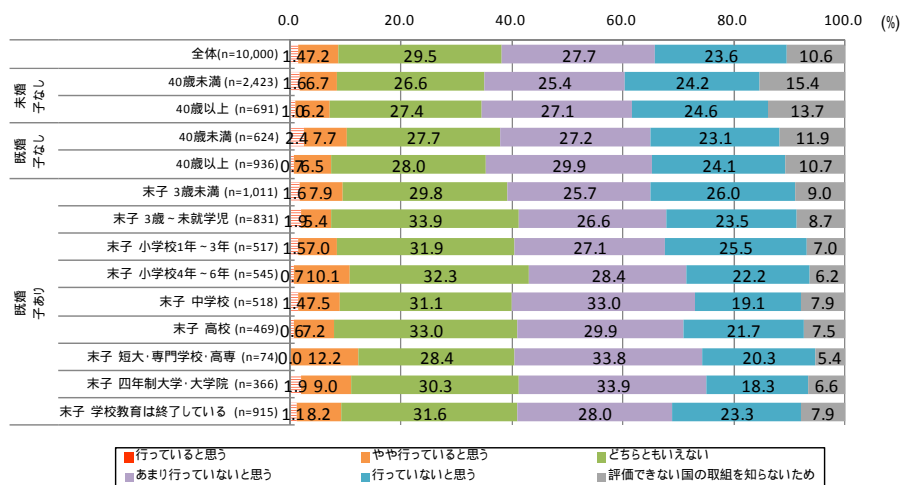


(3) 取組を行っていないと思う施策

長時間労働の抑制、テレワークの活用等、働き方の見直しに向けた環境整備を図る取組(取組 21)

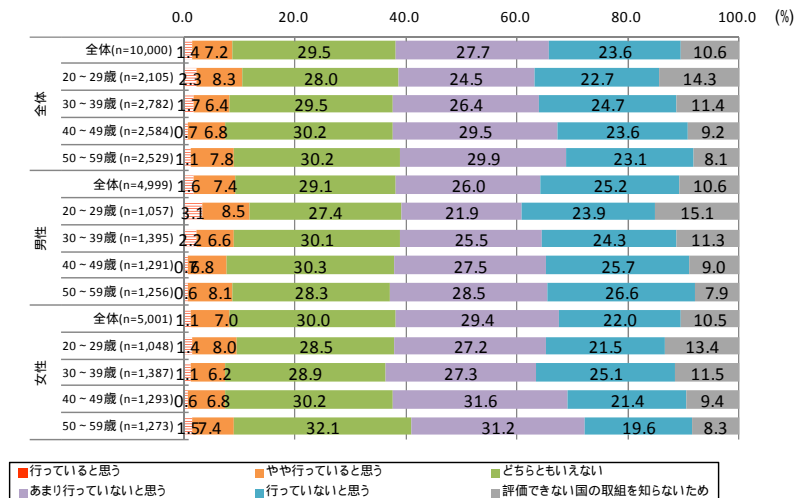
「長時間労働の抑制、テレワークの活用等、働き方の見直しに向けた環境整備を図る取組」について、ライフステージ別にみると、行っていないと思う割合(「行っていないと思う」と「あまり行っていないと思う」の計)は、既婚子あり/末子短大・専門学校・高専(54.1%)、既婚子なし/40歳以上(54.0%)、既婚子あり/末子小学校1年～3年(52.6%)で高くなっている。

ライフステージ別



性年代別にみると、行っていないと思う割合(「行っていないと思う」と「あまり行っていないと思う」の計)は、男性/50～59歳(55.1%)、男性/40～49歳(53.2%)、女性/40～49歳(53.0%)で高くなっている。なお、「評価できない」(国の取組を知らないため)割合は、20～29歳で高くなっている。

性年代別



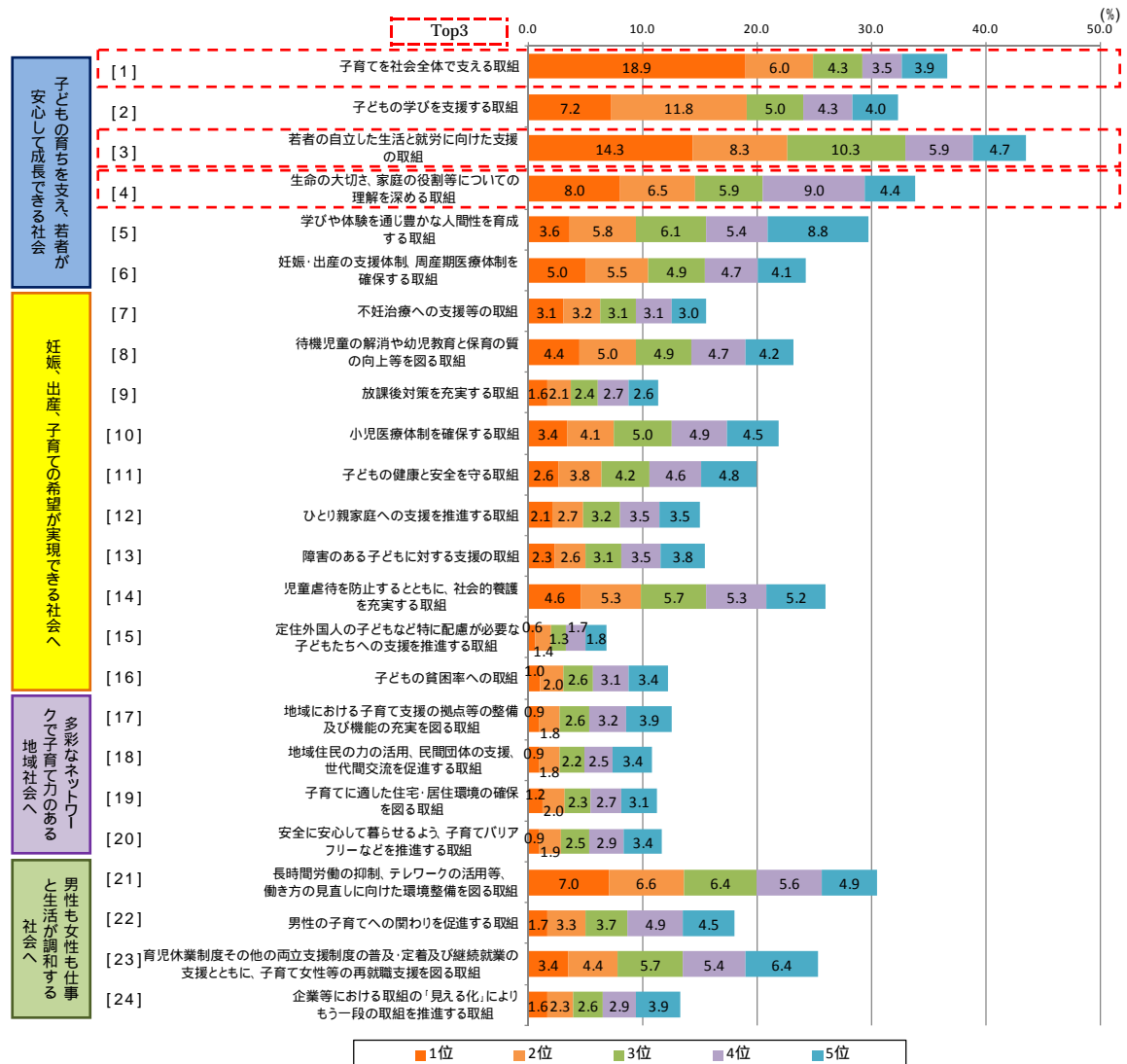
3. 子ども・子育てビジョンの取組に関する要望【国に実現してほしい項目】

子ども・子育てビジョンの取組に関する要望の中で1番目から5番目に実現してほしい項目について質問したところ、1番目から5番目の合計が最も多かったのは「若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組」で43.5%となっている。次いで「子育てを社会全体で支える取組」(36.6%)、「生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を深める取組」(33.8%)、「子どもの学びを支援する取組」(32.3%)、「長時間労働の抑制、テレワークの活用等、働き方の見直しに向けた環境整備を図る取組」(30.5%)となっている。なお、1位として5人に1人弱があげていたのが「子育てを社会全体で支える取組」(18.9%)であり、これは「若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組」(14.3%)を上回っている。

子ども・子育てビジョンの取組に関する要望

国に実現してほしい項目

(n=10,000)



子ども・子育てビジョンの取組に関する要望の1番目から5番目の合計のトップ3をライフステージ別でみると、各ステージで「若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組」がみられる。ステージ別の特徴としては、未婚子なしでは「長時間労働の抑制、テレワークの活用等、働き方の見直しに向けた環境整備を図る取組」と就業関係が多くなっている。既婚子なし/40歳未満では「妊娠・出産の支援体制、周産期医療体制を確保する取組」がトップ1となっている。既婚子ありは、末子中学生以下では「子育てを社会全体で支える取組」と子育て関連が多くみられ、末子高校以上では「若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組」と就業関連が多くみられる。

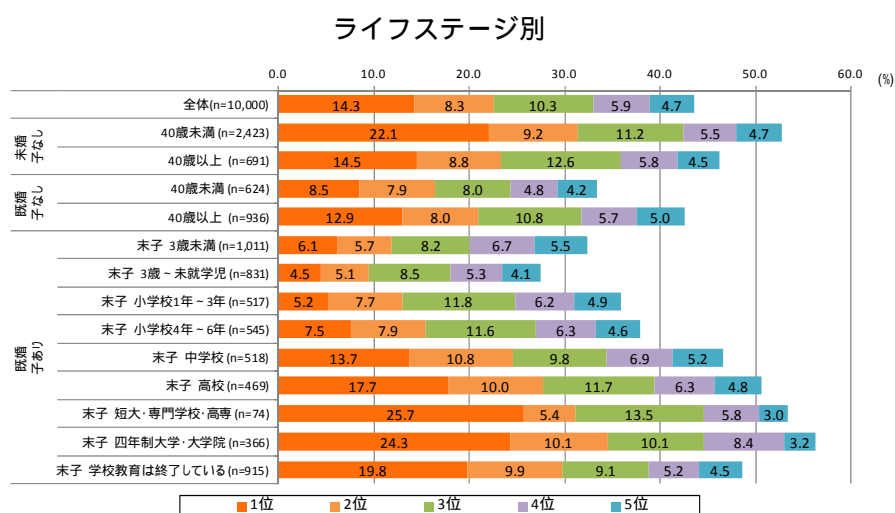
ライフステージ別1番目から5番目の合計のトップ3

ライフステージ		トップ1		トップ2		トップ3	
未婚子なし	40歳未満 (n=2,423)	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 52.7%	長時間労働の抑制、テレワークの活用等、働き方の見直しに向けた環境整備を図る取組	取組21 36.2%	生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を深める取組	取組4 32.7%
	40歳以上 (n=691)	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 46.2%	生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を深める取組	取組4 44.2%	長時間労働の抑制、テレワークの活用等、働き方の見直しに向けた環境整備を図る取組	取組21 37.2%
既婚子なし	40歳未満 (n=624)	妊娠・出産の支援体制、周産期医療体制を確保する取組	取組6 41.4%	子育てを社会全体で支える取組	取組1 35.8%	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 33.3%
	40歳以上 (n=936)	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 42.5%	生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を深める取組	取組4 39.8%	児童虐待を防止するとともに、社会的養護を充実する取組	取組14 32.8%
既婚子あり	末子 3歳未満 (n=1,011)	子育てを社会全体で支える取組	取組1 54.9%	子どもの学びを支援する取組	取組2 40.6%	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 32.3%
	末子 3歳～未就学児 (n=831)	子育てを社会全体で支える取組	取組1 54.6%	子どもの学びを支援する取組	取組2 44.7%	生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を深める取組	取組4 32.4%
	末子 小学校1年～3年 (n=517)	子育てを社会全体で支える取組	取組1 56.0%	子どもの学びを支援する取組	取組2 46.7%	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 35.9%
	末子 小学校4年～6年 (n=545)	子どもの学びを支援する取組	取組2 52.4%	子育てを社会全体で支える取組	取組1 49.9%	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 37.9%
	末子 中学校 (n=518)	子どもの学びを支援する取組	取組2 48.1%	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 46.5%	子育てを社会全体で支える取組	取組1 42.1%
	末子 高校 (n=469)	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 50.5%	子どもの学びを支援する取組	取組2 38.1%	生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を深める取組	取組4 37.2%
	末子 短大・専門学校・高专 (n=74)	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 53.4%	生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を深める取組	取組4 43.6%	育児休業制度その他の両立支援制度の普及・定着及び継続就業の支援とともに、子育て女性等の再就職支援を図る取組	取組23 35.6%
	末子 四年制大学・大学院 (n=366)	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 56.2%	児童虐待を防止するとともに、社会的養護を充実する取組	取組14 35.3%	生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を深める取組	取組4 34.6%
	末子 学校教育は終了している (n=915)	若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組	取組3 48.5%	生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を深める取組	取組4 35.6%	児童虐待を防止するとともに、社会的養護を充実する取組	取組14 32.4%

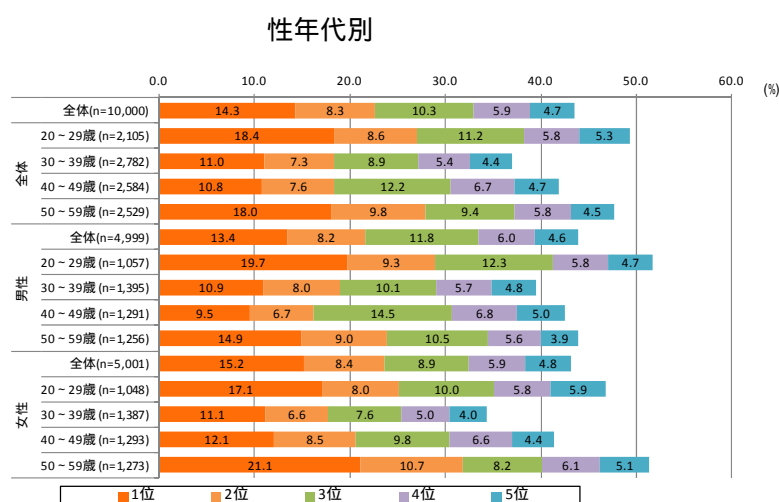
国に実現してほしい項目トップ3

若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組(取組3)

「若者の自立した生活と就労に向けた支援に取組」を1番目から5番目に選んだ回答者をライフステージ別にみると、既婚子あり/末子四年制大学・大学院が56.1%と最も高く、次いで既婚子あり/末子短大・専門学校・高専(53.4%)、未婚子なし/40歳未満(52.7%)となっている。なお、この項目を1位にあげたのは、子どもが就職時期を迎える親、あるいは未婚の40歳未満に多い。

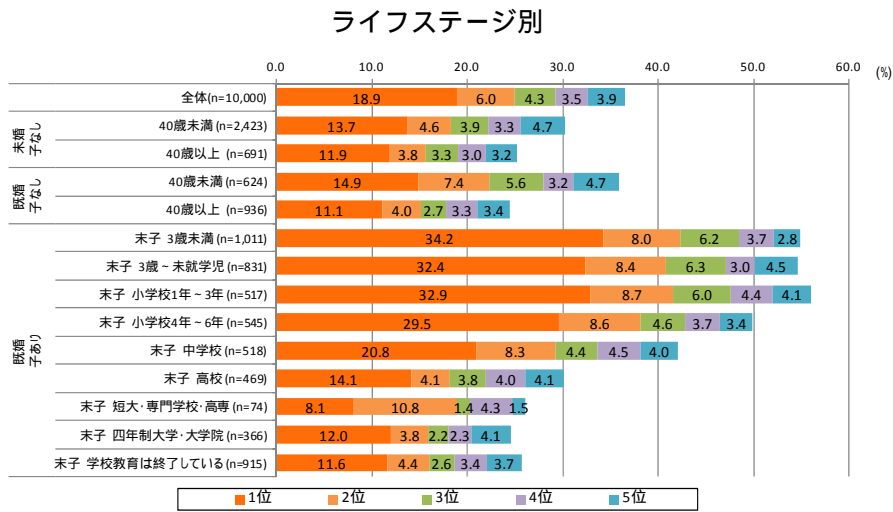


性年代別にみると、男性/20～29歳が51.8%と最も高く、次いで女性/50～59歳(51.2%)、女性/20～29歳(46.8%)となっている。

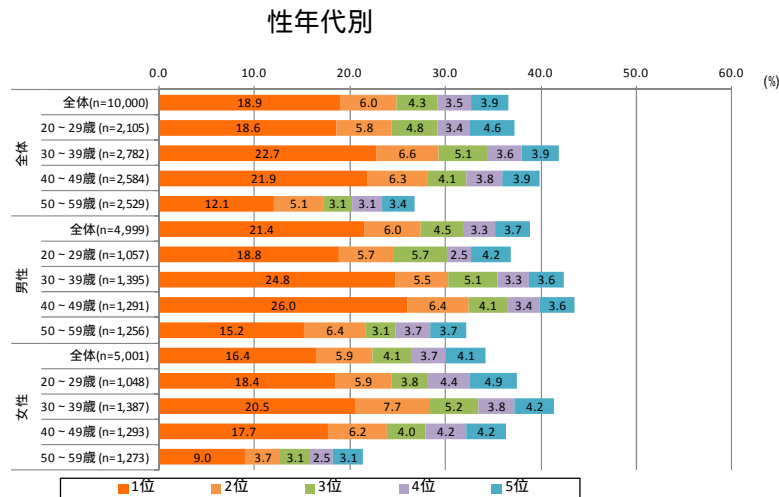


子育てを社会全体で支える取組(取組1)

「子育てを社会全体で支える取組」を1番目から5番目に選んだ回答者をライフステージ別にみると、既婚子あり/末子小学校1年～3年が56.1%と最も高く、次いで既婚子あり/末子3歳未満(54.9%)、既婚子あり/末子3歳～未就学児(54.6%)となっている。なお、この項目を1位にあげたのは末子が小学校以下の親に多い。

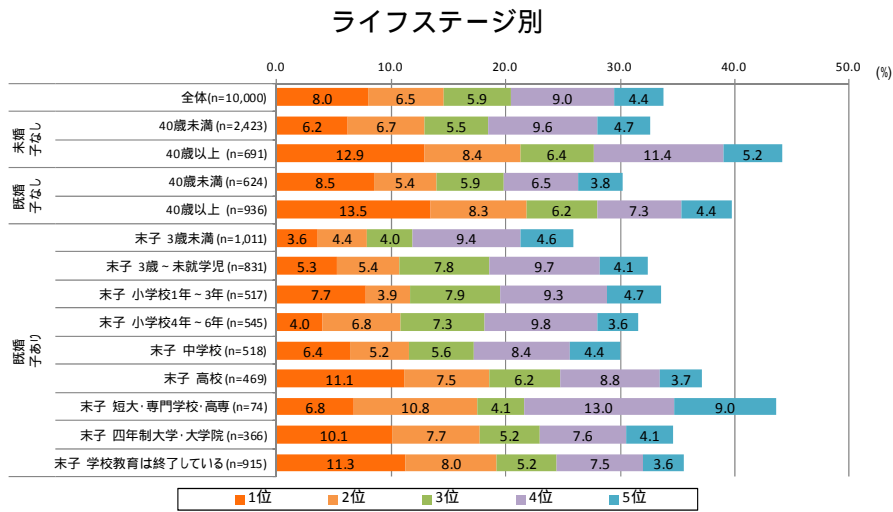


性年代別にみると、男性/40～49歳が43.5%と最も高く、次いで男性/30～39歳(42.3%)、女性/30～39歳(41.4%)となっている。なお、女性/50～59歳は極めて低くなっている。

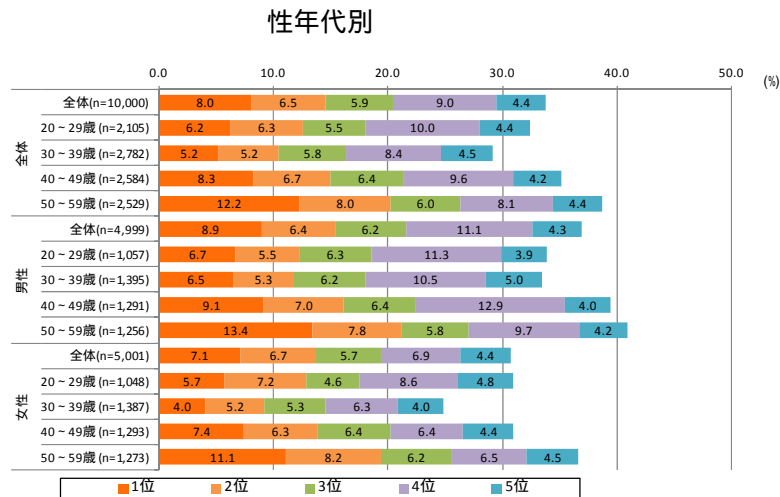


生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を深める取組(取組4)

「生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を深める取組」を1番目から5番目に選んだ回答者をライフステージ別にみると、未婚子なし/40歳以上が44.3%と最も高く、既婚子あり/末子短大・専門学校・高専(43.7%)、既婚子なし/40歳以上(39.7%)となっている。



性年代別にみると、男性/50～59歳が40.9%と最も高く、男性/40～49歳(39.4%)、女性/50～59歳(36.5%)となっている。性別で比べると、男性の方が高くなっている。



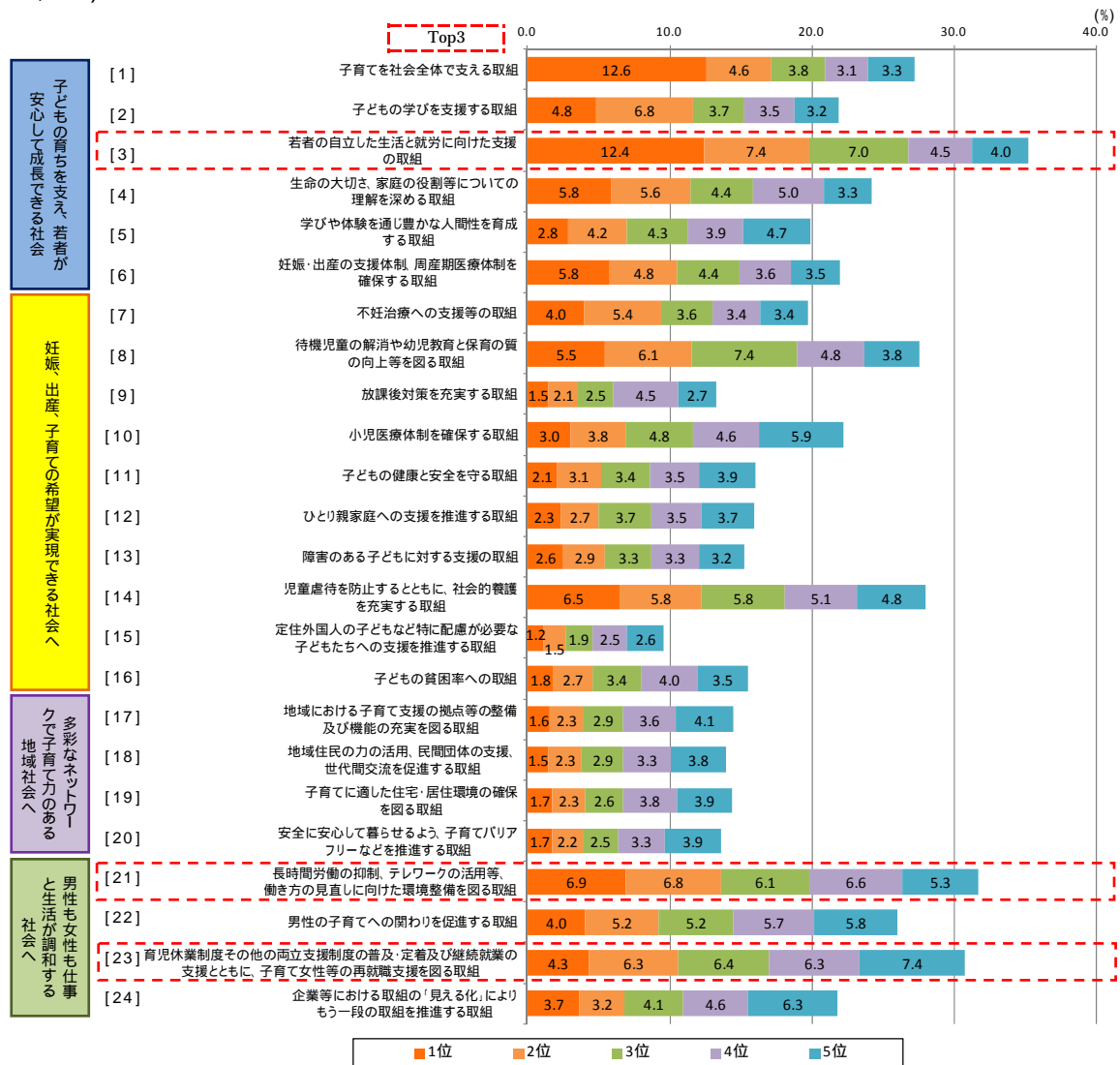
4. 子ども・子育てビジョンの取組に関する要望【国の取組として不十分だと考える項目】

子ども・子育てビジョンの取組に関する要望の中で1番目から5番目に不十分だと考える項目の割合をみると、1番目から5番目の合計が最も多かったのは「若者の自立した生活と就労に向けた支援に取組」で35.3%となっている。次いで「長時間労働の抑制、テレワークの活用等、働き方の見直しに向けた環境整備を図る取組」(31.7%)、「育児休業制度・その他の両立支援制度の普及・定着及び継続就業の支援とともに、子育て女性等の再就職支援を図る取組」(30.7%)、「児童虐待を防止するとともに、社会的養護を充実する取組」(28.0%)、「待機児童の解消や幼児教育と保育の質の向上等を図る取組」(27.6%)となっている。

子ども・子育てビジョンの取組に関する要望

国の取組として不十分だと考える項目

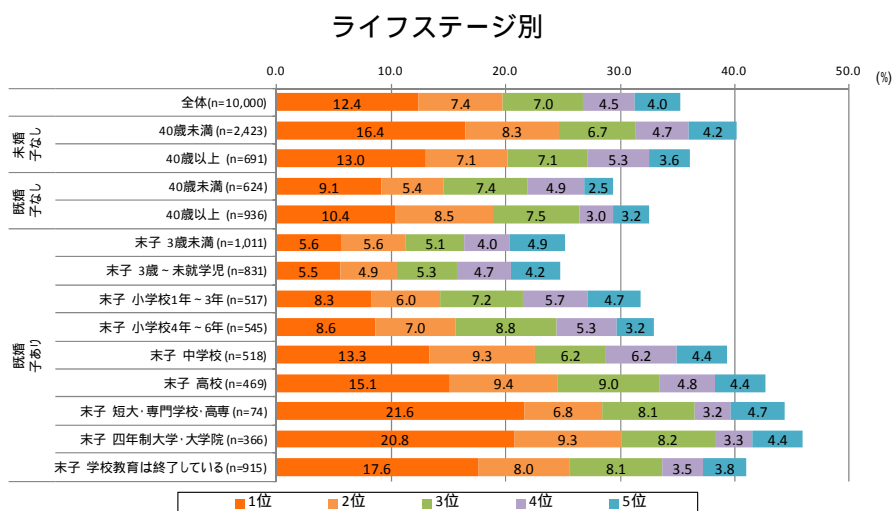
(n=10,000)



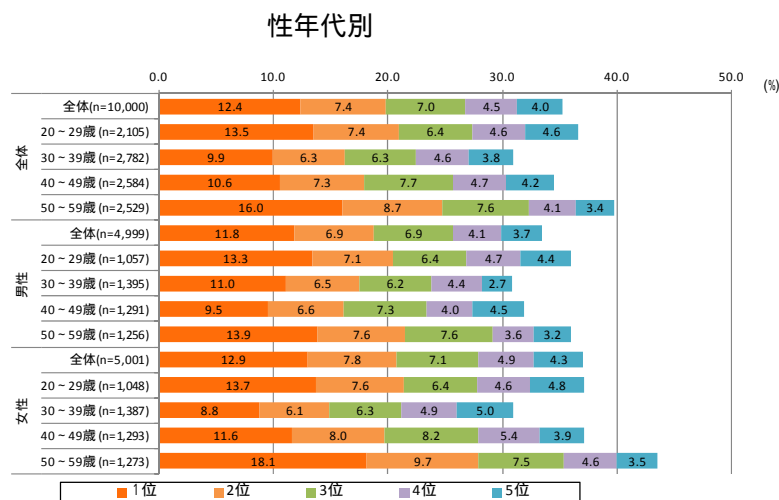
国の取組として不十分だと考える項目トップ3

若者の自立した生活と就労に向けた支援の取組(取組3)

「若者の自立した生活と就労に向けた支援に取組」を1番目から5番目に選んだ回答者をライフステージ別にみると、既婚子あり/末子四年制大学・大学院が46.0%と最も高く、次いで既婚子あり/末子短大・専門学校・高専(44.4%)、既婚子あり/末子高校(42.7%)となっている。また、未婚子なし/40歳未満では40.3%と高くなっており、既婚子あり/末子短大・専門学校・高専では、1位の回答率が高くなっている。



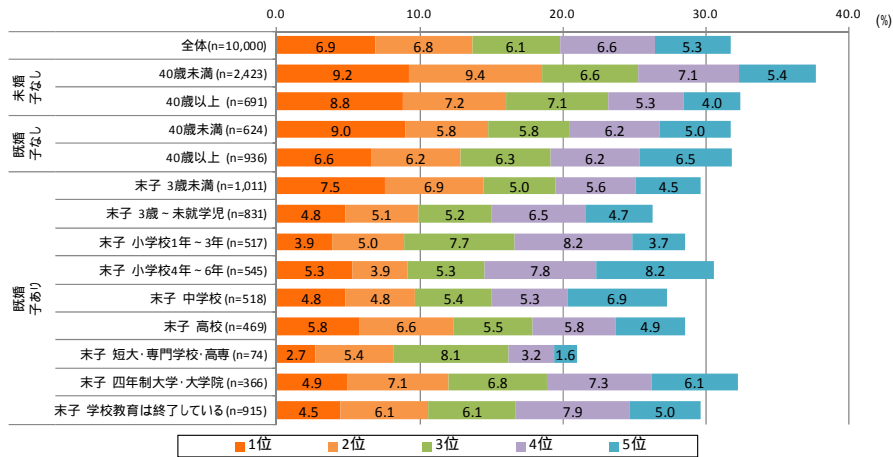
性年代別にみると、女性/50～59歳が43.4%と最も高く、次いで女性/20～29歳、女性/40～49歳(37.1%)となっている。年代で比べると、50～59歳と20～29歳で高くなっている。



長時間労働の抑制、テレワークの活用等、働き方の見直しに向けた環境整備を図る取組(取組 21)

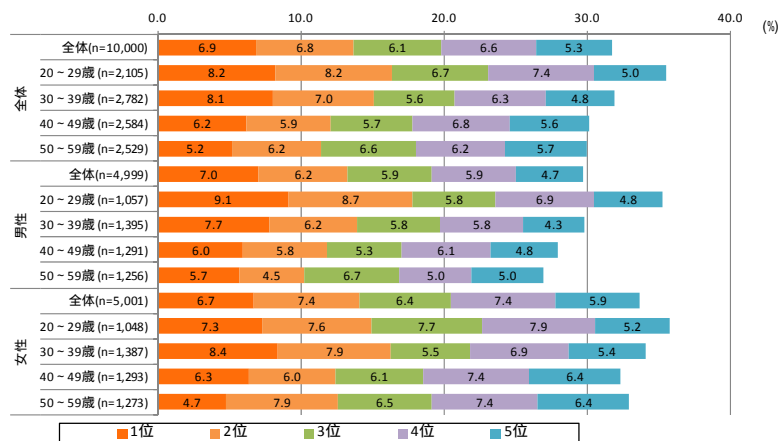
「長時間労働の抑制、テレワークの活用等、働き方の見直しに向けた環境整備を図る取組」を1番目から5番目に選んだ回答者をライフステージ別にみると、未婚子なし/40歳未満が37.7%と最も高く、次いで未婚子なし/40歳以上(32.4%)、既婚子あり/末子四年制大学・大学院(32.2%)となっている。

ライフステージ別



性年代別にみると、女性/20～29歳が35.7%と最も高く、次いで男性/20～29歳(35.3%)、女性/30～39歳(34.1%)となっている。年代で比べると、若年層で高くなっている。

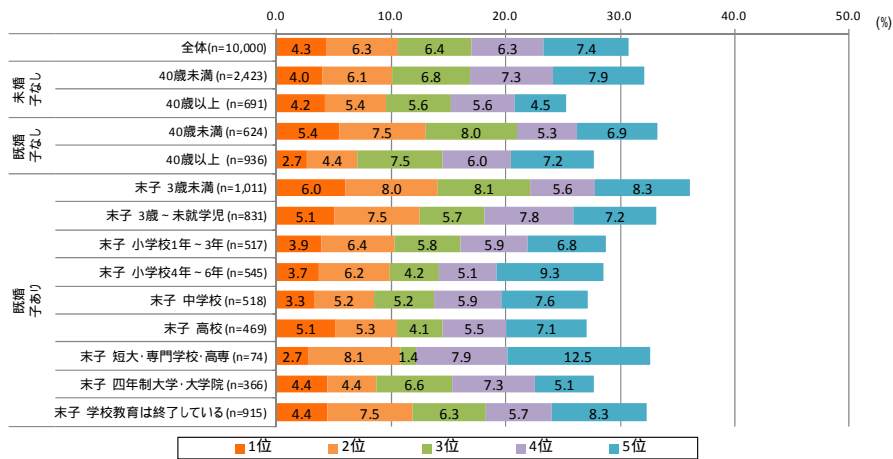
性年代別



育児休業制度その他の両立支援制度の普及・定着及び継続就業の支援とともに、子育て女性等の再就職支援を図る取組(取組23)

「育児休業制度その他の両立支援制度の普及・定着及び継続就業の支援とともに、子育て女性等の再就職支援を図る取組」を1番目から5番目に選んだ回答者をライフステージ別にみると、既婚子あり/末子3歳未満が36.0%と最も高く、次いで既婚子あり/末子3歳～未就学児(33.3%)、既婚子なし/40歳未満(33.1%)となっている。

ライフステージ別



性年代別にみると、女性/30～39歳が41.5%と最も高く、次いで女性/20～29歳(38.3%)、女性/40～49歳(33.8%)となっている。性別で比べると、女性の方が高くなっている。

性年代別

